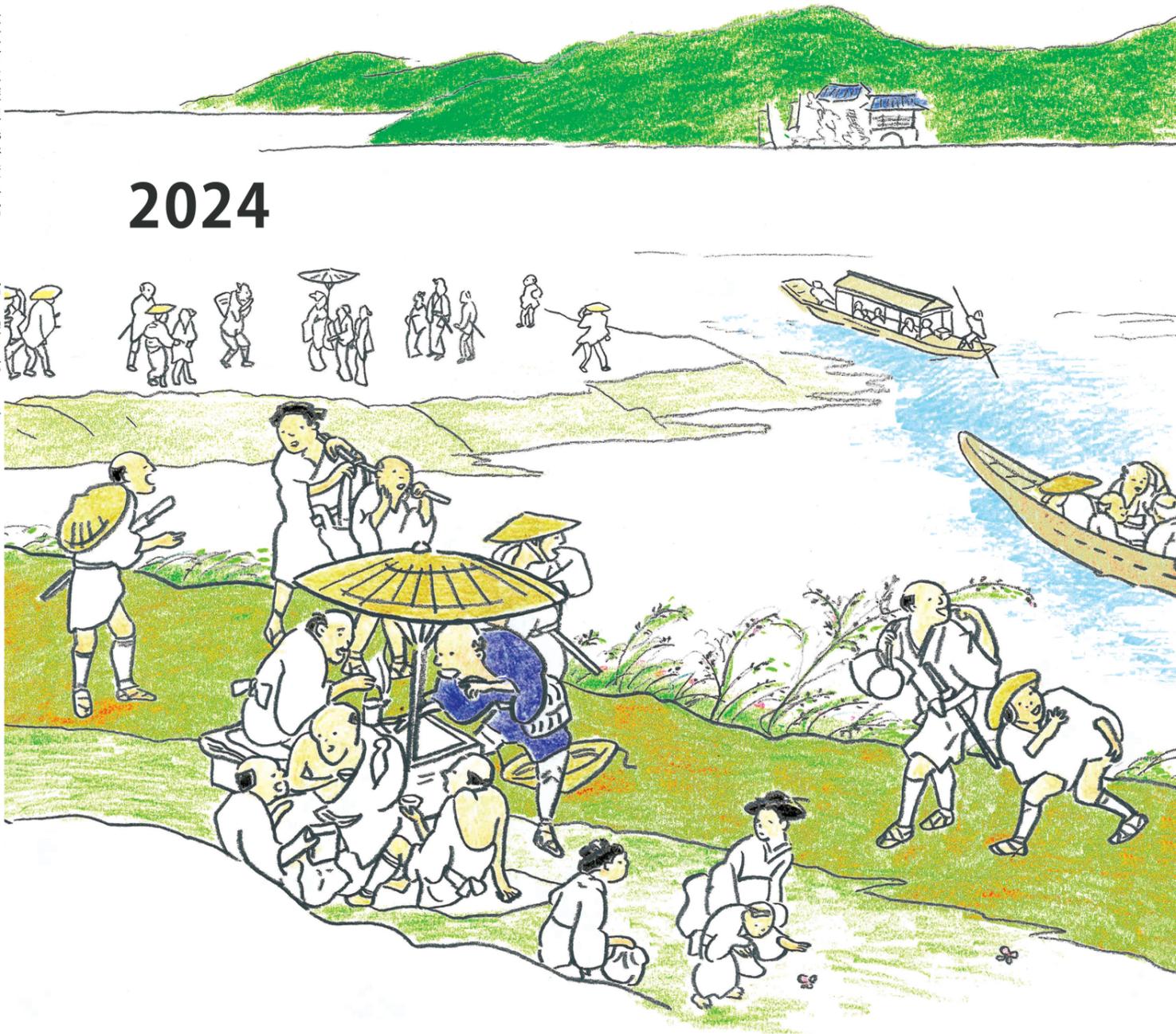


大東市立歷史民俗資料館

2024

館報 第9号



大東市立歴史民俗資料館
館報 第9号

2024



ごあいさつ

日頃より大東市立歴史民俗資料館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当館では令和6年（2024）度も、企画展示や講演会、見学会などさまざまな事業を行ってまいりました。また、市民学芸員活動や学芸員体験講座も継続し、多くの皆さまにご参加いただきました。

今年度の展示では、地域の歴史や民俗文化をより身近に感じていただけるよう、春季展「野崎観音信仰の広がり」と大塩平八郎門下の豪農」、夏季展「新田会所をとりまくヒトとモノ～平野屋新田会所から～」、秋季特集展「れきみん的风景写真鑑賞のすすめ～写真家が見た、御領・門真の昔ながらの風景～」、冬季展「ちょっとむかしのくらし」に取り組みました。関連する講演会や体験イベントも好評をいただき、市民の皆さまの学びの場としてご活用いただいております。

また、小中学校の団体見学や出前授業等のスクールプログラムも充実し、地域学習の支援に努めております。個別プログラムの作成や、所蔵資料の貸出、講師派遣などを通じて、より多くの方々に当館の魅力を知っていただけるよう努めてまいりました。

今後も皆さまのご意見を伺いながら、地域に根ざした博物館活動の充実に励んでまいります。引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年7月31日
大東市立歴史民俗資料館
館長 森田拓馬

大東市立歴史民俗資料館 職員 (令和7年3月31日現在)

館長 森田 拓馬

奈良大学文化財学科保存科学コース卒業後、模型や複製品製作の民間企業に勤める。平成30(2018)年4月より勤務。平成31(2019)年4月より現職。資料館では体験機材の製作や、モノづくりの視点から資料を見る取り組みを担当する。

学芸員 森井 綾乃

平成29(2017)年京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻染織修了。平成26(2014)年9月より勤務。平成31(2019)年4月より現職。主に展示や広報物の制作・デザイン、河内木綿に関する取り組みを担当する。

学芸員 鮫島 早葵

京都造形芸術大学(現京都芸術大学)大学院芸術研究科芸術専攻歴史遺産研究領域修了。令和2(2020)年10月より勤務。資料館では民俗資料を担当する。

学芸員 木村 大輔

平成24(2012)年、佛教大学大学院博士後期課程文学研究科日本史学専攻単位取得満期退学後、京都産業大学ギャラリーでの勤務を経て、令和4(2022)年11月より現職。専門は歴史地理学、地図史。資料館では文献史料担当。

学芸員 北村 美香

博士(博物館学)。専門は博物館教育・マネジメント。滋賀県平和祈念館の初代学芸員として、開館準備室より勤務。その後、博物館の教育普及等を支援する「結 creation」を平成27(2015)年に立ち上げる。大阪市立自然史博物館の外来研究員。平成30(2018)年4月より現職。資料館では、教育普及および運営に関するサポートを行っている。

学芸員 西尾 大樹

龍谷大学大学院文学研究科日本史学専攻博士後期課程在籍。令和2(2020)年4月より大東市史編纂事業に従事。令和4(2022)年5月より勤務。専門は織豊期政治史。

大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員 (令和7年3月31日現在) 37名

石田 剛	楠 公子	竹元 智子	東 公美	松尾 恒則
磯野 良隆	栗山 登志子	寺原 千佳子	東村 誠	水永 八十生
上野 繁	栞原 妙子	土岐 浩二	久島 正裕	森川 安生
氏原 稔夫	澤井 嘉子	富増 由起子	平尾 和久	安田 久子
岡田 順子	柴田 俊雄	中川 典彦	平尾 寿美子	米岡 貴子
小村 和子	白神 友美	中川 美保	平嶋 貞子	
川崎 朋子	杉山 喜久子	林田 恵子	吹上 正世	
川人 美智子	埜田 めぐみ	檜垣 一美	藤田 くるみ	



目次

ごあいさつ

I 館報

1 資料館事業報告

1 展示・関連事業	6 - 10
2 市民学芸員養成講座	11
3 講師派遣事業	12
4 その他の事業	13 - 18
5 スクールプログラム	19
6 資料貸出及び閲覧等	20 - 21
7 学芸員の館外における社会貢献活動	22 - 23
8 月別入館者数	24

2 市民学芸員事業報告

1 例会・連絡会会議・学芸員提案事業	26 - 28
2 市民学芸員提案事業	29 - 31

II 展示報告／研究報告

・ 令和6年度夏季企画展「新田会所をとりまくヒトとモノ～平野屋新田会所から～」展示報告	34 - 36
森田 拓馬	
・ 令和6年度秋季特集展「れきみん的风景写真鑑賞のすすめ～写真家が見た、御領・門真の昔ながらの風景～」実施報告	
森井 綾乃	38 - 43
・ 史料集『野崎観音慈眼寺文書』完結記念展「野崎観音信仰の広がり」と大塩平八郎門下の豪農」の実施報告	
木村 大輔	44 - 48



令和6年度冬季企画展「ちょっとむかしの暮らし」展示関連事業風景

I 館報

1 資料館事業報告

2024

展示・展示関連事業



史料集『野崎観音慈眼寺文書』完結記念展 野崎観音信仰の広がりと大塩平八郎門下の豪農

令和6年4月13日(土)～5月26日(日)

参加者数 / 1751名(期間中入館者数)

主催 / 大東市立歴史民俗資料館、大東市

担当 / 木村大輔、西尾大樹

内容 / 史料集『野崎観音慈眼寺文書』完結を記念して、野崎観音信仰の広がりについての、野崎観音信仰の具体的事例として大塩平八郎門下の豪農である茨田郡士についての展示を行った。



企画展関連事業

担当学芸員による展示解説・慈眼寺境内の案内
4月28日(日) 14時00分～16時00分

参加者数 / 16名 講師 / 木村大輔、西尾大樹

担当学芸員による展示解説後、慈眼寺へ向かい境内に現存する石造物等の説明を行う。

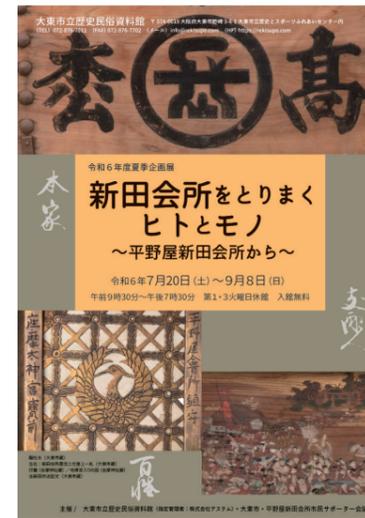
企画展関連事業

展示関連講演会①「野崎観音信仰の広がり」
展示関連講演会②「大塩平八郎と門人たち」
5月11日(土)、18日(土) 14時00分～16時00分

参加者数 / 69名(2回合計) 講師 / 岡村喜史さん(市史編纂委員)、常松隆嗣さん(門真市立歴史資料館)

『野崎慈眼寺文書』の史料に記された内容から野崎観音信仰の広がり、大塩平八郎やその門人、大塩平八郎の乱について当時の社会状況を加味しながら講じられた。

展示・展示関連事業



夏季企画展

新田会所をとりまくヒトとモノ～平野屋新田会所から～

令和6年7月20日(土)～9月8日(日)

参加者数 / 1542名(期間中入館者数)

主催 / 大東市立歴史民俗資料館、大東市、平野屋新田会所市民サポーター会議

担当 / 森田拓馬、西尾大樹

内容 / 大和川付替えに伴い開発された新田を現地で管轄するために設置されたのが新田会所だが、その新田会所とは何なのか、平野屋新田会所から見てくる機能について分かりやすい展示を行った。

企画展関連事業

展示関連講演会①「平野屋新田会所跡と関連史資料の保存・活用」

展示関連講演会②「平野屋新田会所と坐間神社の絵画」

展示関連講演会③「平野屋新田会所の民具からひもとく大東の地域性」

7月21日(日)、27日(土)、8月10日(土)

14時00分～16時00分

参加者数 / 55名(3回合計) 講師 / 佐々木拓哉さん(大東市)、岩間香さん(摂南大学名誉教授)、溝邊悠介さん(京都芸術大学講師)

平野屋保存活用の経緯や意義、平野屋新田会所で使われ、現在資料館に寄贈されている杉戸絵や、坐間神社の絵馬、平野屋新田会所に残されていた民具の概要についての講座を行った。



企画展関連事業

ギャラリートーク

8月24日(土) 14時00分～16時00分

参加者数 / 4名 講師 / 西尾大樹、森田拓馬

展示を担当した当館学芸員が、企画展示室での展示解説を実施した。

企画展関連事業

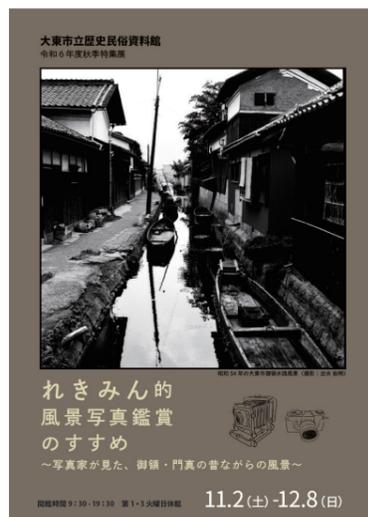
シンポジウム「新田研究の最前線～新田地主と会所・鎮守～」

令和7年3月22日(土) 13時00分～16時00分

参加者数 / 28名 講師 / 岡村喜史さん(大東市史編纂委員)、松永友和さん(徳島県立博物館学芸員)、西尾大樹、藪田貫さん(兵庫県立歴史博物館館長)

平野屋新田会所に関する基礎研究や新発見について、3名の講演者を迎えて行った。講演後にはパネルディスカッションを実施した。

展示・展示関連事業



秋季特集展
れきみん的风景写真鑑賞のすすめ～写真家が見た、御領・門真の昔ながらの風景～
 令和6年11月2日（土）～12月8日（日）

参加者数 / 1076名（期間中入館者数）
 担当 / 森井 綾乃
 内容 / 写真家の出水伯明さんが撮影した御領や門真の写真をもとに、写真の読み解き方や写された地域について紹介した。

展示・展示関連事業



冬季企画展
ちょっとむかしの暮らし
 令和7年1月11日（土）～3月9日（日）

参加者数 / 2080名（期間中入館者数）
 主催 / 大東市立歴史民俗資料館、大東市立東部図書館
 後援 / 大東市教育委員会
 担当 / 森田 拓馬、鮫島 早葵
 内容 / むかしの暮らしや使用されていた道具を紹介する展示を行った。昭和初期の屋内再現展示や、体験コーナーを設けた。また、特別コーナーとして東部図書館と共催で、絵本に描かれた道具を収蔵資料の中から選び出して展示した。



企画展関連事業
「展示室で『絵本の読み聞かせ』」
 1月26日（日）、2月15日（土）14時00分～15時00分
 参加者数 / 30名（2回合計） 講師 / 森田 拓馬、上田 裕介（東部図書館 館長）、比屋根 虹花（東部図書館）、安井 佳代（東部図書館）

企画展示室で昔の道具が出てくる絵本を朗読し、展示している道具の紹介も行った。



その他展示



常設展示室スポット展
大阪デスティネーションキャンペーン
「三好長慶書状」特別公開展示

令和6年4月1日(月)～6月30日(日)

参加者数 / 2858名(期間中入館者数)

担当 / 森田 拓馬

内容 / 観光振興課からの依頼で三好長慶書状を展示したほか、三好長慶をイメージしやすいよう肖像画を常設展示コーナーに展示した。



常設展示室スポット展
中垣内遺跡・元粉遺跡発掘調査速報展

令和6年4月20日(土)～9月29日(日)

参加者数 / 4880名(期間中入館者数)

主催 / 大東市立歴史民俗資料館、大東市

内容 / 大阪産業大学校舎建設に伴い行った発掘調査成果を展示した。



常設展示室スポット展
鈴鹿五郎氏選定保存技術保持者認定速報展

令和6年12月6日(金)～令和7年3月30日(日)

参加者数 / 3374名(期間中入館者数)

主催 / 大東市立歴史民俗資料館、大東市

内容 / 令和6年10月9日に大東市御領の作業所「鈴鹿桐箱店」で桐箱の製作を行っている鈴鹿五郎さんが「美術工芸品保存桐箱製作」の「選定保存技術」保持者に追加認定されたことを記念してスポット展示を行った。

市民学芸員養成講座



市民学芸員養成講座

令和6年5月25日(土)、6月23日(日)、7月28日(日)、
9月22日(日)、10月27日(日)、11月24日(日)、
12月22日(日)、令和7年2月23日(日)、3月23日(日)
14時00分～16時00分

参加者数 / 123名(延べ人数)

担当 / 森田 拓馬、森井 綾乃、鮫島 早葵、木村 大輔、
西尾 大樹

内容 /

- 第1回 博物館とは？(概論)
- 第2回 集める・残す①(資料収集・保管)
- 第3回 集める・残す②(資料収集・保管)
- 第4回 調べる①(調査研究)
- 第5回 調べる②(調査研究)
- 第6回 市内文化財見学
- 第7回 伝える(展示)
- 第8回 まとめ



講師派遣事業



**キャンピィだいとう
「2024年度 民具×米作り体験」**
令和6年4月21日(日)、5月12日(日)、7月13日(土)、
10月6日(日)、27日(日)、11月17日(日)
10時00分～16時00分

参加者数 / 310名(6回合計)
主 催 / 認定NPO 法人大東市青少年協会
協 力 / 大東市立歴史民俗資料館
講 師 / 木村大輔、森田拓馬
内 容 / 田舟、馬鍬といった昔の農具を活用した米作り体験。

- 第1回 苗代作り
- 第2回 植床作り
- 第3回 田植え
- 第4回 草取り
- 第5回 草取り&わら細工
- 第6回 草取り
- 第7回 草取り&カカシ作り
- 第8回 稲刈り
- 第9回 脱穀
- 第10回 羽釜&飯ごう炊飯体験



奈良大学博物館実習 講演会
令和6年6月8日(土) 13時00分～14時30分

参加者数 / 133名
講 師 / 森田拓馬
内 容 / 学芸員資格を目指す受講生に向けて、指定管理者制度で運営されている市立資料館の活動について講演を実施した。

その他事業 - インターネット活用事業 -

インターネット活用事業



おうちミュージアム
令和2年4月19日(日)～
参加者数 / ー(ホームページ上で掲載) 担当 / 森井綾乃
内 容 / 北海道博物館が主導する「おうちミュージアム」に参加する形で、施設に来ることの出来ない遠方の利用者向けに歴史とスポーツふれあいセンター公式ホームページ上に特設ページを立ち上げ、塗り絵や読み物などといったおうちで楽しむことが出来るコンテンツを用意した。

デジタルアーカイブ 準備
令和6年4月1日(月)～令和7年3月31日(月)
担 当 / 鮫島早葵、森田拓馬
内 容 / デジタルアーカイブの公開準備として経寺だんじり、河内木綿関係の資料の再調査等を行った。



オンライン配信 「昭和の暮らし「きくえさんのいちにち」」
令和6年4月13日(土)
参加者数 / 一名(オンライン配信)
担 当 / 森井綾乃
内 容 / 昭和の初め頃の暮らしの様子を紹介する動画を、Youtubeで配信した。



オンライン配信 「江戸時代野崎まいりの行程を辿る(後編)」
令和6年6月11日(火)
参加者数 / 一名(オンライン配信)
担 当 / 鮫島早葵、木村大輔
内 容 / 春季企画展に関連する動画を、Youtubeで配信した。

その他事業 - インターネット活用事業／共催・協力・連携事業 -

インターネット活用事業



オンライン配信 「古写真をもとに、大東市御領地区を散策してみよう！」
令和6年11月19日（火）

参加者数 / 一名（オンライン配信）

担当 / 森井 綾乃

内容 / 秋季特集展に関連する動画を、Youtube で配信した。

共催・協力・連携事業



協力展示 国史跡飯盛城跡「石垣からの関の声」@野崎まいり公園
令和4年8月5日（金）～ 9時00分～17時00分

参加者数 / 一名（入館者数カウントせず） 主催 / 大東市観光ボランティアガイド「やまびこ」

協力 / 大東市立歴史民俗資料館 場所 / 野崎まいり公園

担当 / 森井 綾乃

内容 / 飯盛城跡の価値について普及する活動として、大東市観光ボランティアガイド「やまびこ」がパネル巡回展を実施。2ヶ所目の会場である野崎まいり公園において展示を行った。



3館連携事業 “かわちもめんちゃん”をつくろう！ワークショップ
令和6年11月23日（土祝） 10時30分～12時30分、13時30分～15時30分

参加者数 / 14名（2回合計） 連携 / 大東市立歴史民俗資料館、大東市立生涯学習センター
アクロス、大東市立総合文化センター 場所 / 大東市立生涯学習センターアクロス

講師 / 羊毛フェルトちくちく 担当 / 森井 綾乃

内容 / アクロスハンドフェス&癒しフェア DAITO 内で実施した。木綿と羊毛でぬいぐるみ作りのイベントを行った。



（写真：大東市社会福祉協議会）

だいたうもめんの輪（「RiBON de リュッカ もめんの綿繰り体験」協力）
令和6年12月12日（木） 10時30分～12時00分

参加者数 / 19名 主催 / 大東市社会福祉協議会 場所 / RiBON

担当 / 森井 綾乃

内容 / 社会福祉協議会が主催する RiBON において行われる糸紡ぎ体験イベントのため、綿繰り機とスピンドルの貸出協力を行った。

その他事業 - 共催・協力・連携事業 -

共催・協力・連携事業



3館連携事業 だいたうもめんの輪 成果展示
（ダイトウアーティスト展内）

令和6年2月19日（水）～24日（月祝） 9時10分～16時00分

参加者数 / 7名 連携 / 大東市立歴史民俗資料館・大東市立生涯学習センターアクロス・大東市立総合文化センター 場所 / 大東市立文化ホール 担当 / 森井 綾乃
内容 / アクロスハンドフェス&癒しフェア DAITO 内で実施した木綿と羊毛でぬいぐるみ作りのイベントの成果物を展示した。またポスター展示として、各館が連携して取り組んだ綿の栽培について紹介した。



共催事業 土曜考古学講座

令和6年6月29日（土）、8月3日（土）、12月21日（土）、2月22日（土）

参加者数 / 86名（4回合計） 主催 / 大東市、大東市立歴史民俗資料館
講師 / 李 聖子さん（大東市）、黒田 淳さん（大東市）、寺井 誠さん（大阪歴史博物館 学芸員）、濱田 延充さん（大阪公立大学 非常勤講師） 担当 / 森田 拓馬

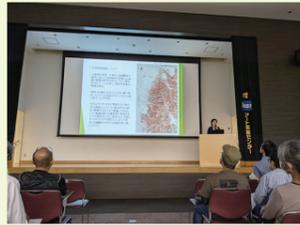
内容 / 第1回「中垣内遺跡・元粉遺跡発掘調査成果報告—大阪産業大学校舎建設に伴う発掘調査—」、第2回「考古学でたどる平野屋新田会所の変遷—発掘調査の再検討から—」、第3回「河内湖東岸の渡来人とその故郷—堂山1号墳の時代の対朝鮮半島交流—」、第4回「7世紀の大東市」といった内容で、市内埋蔵文化財を紹介する全4回の講座を行った。

協力事業 ふかきたフェスティバル2024 ザ・夕涼み
第1部「消防・防災フェア」

令和6年9月14日（土） 10時00分～15時00分

参加者数 / 3000名（来場者数） 主催 / 大東四條畷消防本部・深北緑地パートナーズ
協力 / 大東市危機管理室、四條畷市危機管理課、大東市消防団、四條畷市消防団、大東市防火防災協会、四條畷市防火協会、大東市消防協会、大東市女性防火クラブ連絡協議会、四條畷市女性防火クラブ連絡協議会、四條畷警察署、自衛隊大阪地方協力本部、大東市立歴史民俗資料館 場所 / 大阪府宮公園深北緑地
担当 / 鮫島 早葵
内容 / 「昭和47年7月豪雨」についての聞き取り調査をまとめたパネルを展示。また、令和4年度夏季企画展「大東市の水害と治水」で作成したリーフレットを配布した。

共催・協力・連携事業



共催事業 クローズアップ飯盛城 2024 飯盛城を支えたお城を考える

令和6年10月12日(土) 13時00分～16時30分

参加者数 / 184名 主催 / 大東市、四條畷市教育委員会、大東市立歴史民俗資料館、四條畷市立歴史民俗資料館 講師 / 江浦 洋さん(公益財団法人元興寺文化財研究所)、

天野 忠幸さん(天理大学 教授)、李 聖子さん(大東市)、村上 始さん(四條畷市教育委員会)

場 所 / 大東市立市民会館 担当 / 森田 拓馬

内 容 / 飯盛城の支城について、発掘調査報告と講演を行った。

研修対応 令和6年度大東市小・中学校初任者研修

令和6年10月24日(木) 14時00分～14時35分

参加者数 / 18名 講師 / 森田 拓馬

内 容 / 市内小・中学校初任者に対し、地域教材・地域人材などの活用方法を伝える目的で、歴史民俗資料館の機能などを伝えた。



講座・館外文化財案内 大東シニア大学

令和6年10月25日(金) 14時00分～16時00分

参加者数 / 12名 講師 / 森田 拓馬

内 容 / 歴史体験研究室での座学の後、実際に堂山古墳群史跡広場に赴き現地での解説を行った。



共催事業 堂山古墳群史跡広場普及促進事業「手作りランタンで夜の古墳探検」

令和6年11月3日(日) 17時00分～19時30分

参加者数 / 12名 主催 / 大東市立歴史民俗資料館、大東市立東部図書館

講 師 / 東部図書館 館長、東部図書館 司書、森田 拓馬、森井 綾乃

内 容 / 東部図書館でLEDランタンを作成した後、歴史民俗資料館の学芸員が夜の堂山古墳群史跡広場を案内した。

その他

サークル活動協力

令和6年4月8日(月)、5月12日(日)、6月2日(日)、7月14日(日)、8月4日(日)、9月22日(日)、10月20日(日)、11月24日(日)、12月8日(日)、令和7年1月12日(日)、3月2日(日)

参加者数 / 53名(延べ人数) 講師 / 森井 綾乃

内 容 / 令和5年度に当館で行った「だいとうもめん教室」の参加者による織物サークル活動において、道具の貸出や技術的アドバイスを適宜行った。

だいとうもめん教室

令和6年4月22日(月)、5月13日(月)、27日(月)、6月10日(月)、6月24日(月)、7月8日(月)、22日(月)、8月26日(月)、9月30日(月)、10月28日(月)、12月16日(月)、令和7年1月27日(月)、2月17日(月)、3月12日(水)、17日(月) 14時00分～16時00分

参加者数 / 111名(延べ人数) 講師 / 森井 綾乃

内 容 / 通年参加制の機織り教室。歴史民俗資料館で栽培しているワタの実を使用し、参加者自ら糸車で紡いだ糸を緯糸として用いて、布を手織りした。



だいとうもめんの輪

令和6年4月24日(水)、30日(火)、5月3日(金祝)、20日(月)、12月25日(水)、令和7年2月25日(火)

参加者数 / 16名(6回合計) 担当 / 森井 綾乃

内 容 / 当館で栽培しているワタの種を希望者へ提供する取り組み。また収穫した実を当館の事業で活用するために寄贈していただいた。本年度は来館者のほか明星金属工業株式会社、社会福祉法人ふらっぶ生活介護事業所のんびりハウス、文化ホール、生涯学習センターアクロス、銭屋川ピオトープ研究会などへの提供を行った。



その他事業 - その他 -

その他



博物館実習（奈良大学通信学部）

令和6年6月12日（水）～16日（日）、9月4日（水）～8日（日）
10時00分～18時00分

参加者数 / 213名（延べ人数）

講師 / 森田拓馬、森井綾乃、鮫島早葵、木村大輔、北村美香、西尾大樹

内容 / 奈良大学通信学部の依頼を受け、5日間にわたって博物館実習を行った。



手ぬぐいを「藍染め」体験

令和6年6月16日（日）、9月8日（日）

11時00分～12時00分、14時30分～15時30分

参加者数 / 37名（2回合計）

講師 / 森井綾乃、森田拓馬、博物館実習生

内容 / 奈良大学の博物館実習内で、教育普及事業運営実習として実施した。



博物館実習

令和6年8月28日（水）～9月1日（日） 10時00分～18時00分

参加者数 / 30名（延べ人数）

講師 / 森田拓馬、森井綾乃、鮫島早葵

内容 / 佛教大学・龍谷大学・近畿大学・大谷大学より博物館実習の受け入れを行った。



職業体験（深野中学校）

令和6年12月4日（水）～5日（木） 9時15分～15時00分

参加者数 / 4名（延べ人数） 講師 / 鮫島早葵

内容 / 深野中学校から依頼を受けて実施。

スクールプログラム

小学校館内案内・講座事業

日時	学校名	学年	講師	内容	人数
1月22日（水）	南郷小学校	3年生	森井綾乃、木村大輔	冬季企画展見学	77名
1月23日（木）	北条小学校	3年生	森田拓馬、木村大輔		41名
1月24日（金）	灰塚小学校	3年生	森田拓馬、鮫島早葵		88名
1月27日（木）	四条小学校	3年生	森田拓馬、森井綾乃、鮫島早葵		94名
1月31日（金）	氷野小学校	3年生	森田拓馬、西尾大樹		64名
2月7日（金）	泉小学校	3年生	森井綾乃、森田拓馬、西尾大樹		81名
2月10日（月）	三箇小学校	3年生	森井綾乃、木村大輔		63名
2月19日（水）	四條畷学園小学校	3年生	森田拓馬、森井綾乃、木村大輔		88名
2月21日（金）	四条北小学校	3年生	森田拓馬、森井綾乃		80名
2月25日（火）	深野小学校	3年生	森井綾乃、木村大輔		78名
3月6日（木）	住道南小学校	3年生	森井綾乃、木村大輔		76名

合計11校 830名

小学校事業外見学

日時	学校名	学年	担当	内容	人数
1月16日（木）	住道北小学校	3年生	森田拓馬	冬季企画展見学	50名

合計1校 50名

小学校講師派遣事業

日時	学校名	学年	講師	内容	人数
11月13日（水）	四條畷市立くすのき小学校	1年生	森井綾乃、森田拓馬	糸車体験	49名
11月29日（金）	寝屋川市立桜小学校	1年生	森田拓馬、森井綾乃		50名
12月2日（月）	寝屋川市立南小学校	1年生	森田拓馬、木村大輔		71名
2月6日（木）	諸福小学校	3年生	森田拓馬、森井綾乃	くらしのうつりかわり	115名

糸車体験3校、くらしのうつりかわり1校 合計4校 285名



資料貸出及び閲覧等

① 資料の貸し出し及び掲載等

資料名	貸出先	目的	公開期間
飯盛城赤色立体図	株式会社アマゾンラテルナ	NHK 総合日本最強の城 SP 17 の飯盛城での VTR に使用。	令和 6 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
河内名所図会 着彩版	クリエイティブジャーナル	「news ランナー」今昔散歩にて使用。	令和 6 年 4 月 25 日～ 令和 6 年 5 月 3 日
正覚寺 阿弥陀如来絵像	共同テレビジョン第 2 制作部	NHK 総合「チコちゃんに叱られる！」にて、あみだくじの由来について質問に答える際に参考画像として使用。	令和 6 年 4 月 20 日～ 令和 6 年 5 月 30 日
イラスト (かわちもめんちゃん) イラスト (かわちもめんちゃん・白黒)	大東市立生涯学習センター アクロス	ポスターとして館内掲示及びアクロス通信や WEB に掲載する。	令和 6 年 5 月 5 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
イラスト (かわちもめんちゃん)	社会福祉法人 大東市社会福祉協議会	ワタの栽培の取り組みを PR するため、栽培場所に掲示する。	令和 6 年 5 月 2 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
三好長慶書状	大東市 観光振興課	三好長慶書状をデザインした手ぬぐいを販売し、書状の存在を広く周知する。	令和 6 年 6 月 14 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
「史跡飯盛城硝石垣の土砂流出について」 写真 4 点	読売新聞	イノシシの掘り起こしによる土砂流出についての報道目的。	令和 6 年 6 月 24 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
飯盛城跡 北から南方向の空中写真 飯盛城跡 石垣 (画像) 飯盛城跡 南から北方向の空中写真 飯盛城跡 石垣 (画像)	株式会社バケット	スマホアプリ「デジタル城下町」の飯盛デジタル城下町民証のデザインとして使用する。	令和 6 年 8 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
令和 4 年度夏季企画展「大東市の水害と治水」 展示パネル	大阪府営 深北緑地	「ふかきたフェスティバル」展示のため。	令和 6 年 9 月 14 日～ 令和 6 年 9 月 23 日
三好長慶書状 飯盛千句 第十百韻 写本	大東市 観光振興課	三好長慶書状と飯盛千句をパンフレットに掲載・配布し、三好長慶の当時の人物像をより理解してもらうため。	令和 6 年 8 月 26 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
飯盛千句 第十百韻 写本	大東市 観光振興課	大阪 DESTINATION キャンペーン期間中に資料館で展示する「飯盛千句」について、広報物を見た観光客にイメージや興味を持っていただくため。	令和 6 年 9 月 10 日～ 令和 7 年 3 月 31 日

合計 19 件 28 点

② 資料の撮影・閲覧

資料名	申請者	目的	申請日	撮影日
令和 4 年度夏季企画展「大東市の水害と治水」パネル	個人	閲覧	令和 6 年 8 月 11 日	令和 6 年 8 月 11 日
祢屋川 / カー 19 辻家文書	個人	閲覧	令和 6 年 11 月 21 日	令和 6 年 11 月 21 日

合計 2 件 2 点

資料貸出及び閲覧等

資料名	貸出先	目的	公開期間
飯盛城跡石垣 69 写真	公益財団法人日本城郭協会	続日本 100 名城カード作成のため。	令和 6 年 9 月 18 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
飯盛城跡近景 南西から	個人	英語で日本歴史を記載した本『Welcome to Japanese History』関連の Instagram に掲載するため。	令和 6 年 10 月 30 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
飯盛城国史跡指定記念 動画	四條畷市立岡部小学校	授業の資料として利用する。	令和 6 年 11 月 8 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
体験用 糸車 体験用 スピンドル	社会福祉法人 大東市社会福祉協議会	つどいの広場リュッカとコラボしたイベントで使用する。	令和 6 年 12 月 9 日～ 令和 6 年 12 月 12 日
赤色立体地図 飯盛城跡部分 (遺構を加筆)	個人	飯盛城の魅力 PR する YouTube 動画を作成・公開する。	令和 6 年 12 月 15 日～
常設展示室風景写真	大東市 観光振興課	飯盛城と三好長慶の歴史が詰まった歴史民俗資料館をパンフレットに掲載し、三好長慶の当時の人物像をより理解してもらうことを目的とする。	令和 7 年 1 月 4 日～
指定第 20 号 専應寺 聖徳太子立像写真	大東商工会議所	大東商工会議所 広報誌「チェーンバーだいたう 155 号」記事内で利用する。	令和 7 年 1 月 24 日～
指定第 18 号 慈眼寺 十一面観音立像写真	大東商工会議所	大東商工会議所 広報誌「チェーンバーだいたう 156 号」記事内で利用する。ホームページ上でも公開する。	令和 7 年 2 月 25 日～

学芸員の館外における社会貢献活動

学芸員の館外における社会貢献活動

森井 綾乃

大学出講	京都橘大学「歴史遺産研究Ⅱ」(4月～7月)
	京都芸術大学「美術工芸史Ⅲ」(9月～令和7年1月)

木村 大輔

大学出講	大阪樟蔭女子大学「博物館資料論」(4月～8月)
	大阪樟蔭女子大学「博物館実習1」(分担 4月～8月)
	佛教大学(通信教育課程)「地理学特講」(6月)
	佛教大学(通学課程)「人文地理学」(9月～令和7年1月)
	佛教大学(通信教育課程)「京都学文献研究」(12月)
	佛教大学(通信教育課程)「地誌学文献研究」(12月)
社会貢献活動	人文地理学会集会委員(令和5年11月～現在に至る)

北村 美香

論文等	北村 美香・池田裕介「ワークショップ参加者の現状から考える博物館についての一考察」(『月刊金属』94巻10号、株式会社 アグネ技術センター、令和6年10月)
書籍等出版	関 慎太郎・竹中 践『日本のいきものビジュアルガイドはっけん!カナヘビ』(担当:分担執筆 範囲:文化と歴史のなかのカナヘビ)(緑書房、令和6年3月) ISBN978-4-89531-947-8
	関 慎太郎・大塚 泰介『日本のいきものビジュアルガイドはっけん!田んぼのいきもの』(担当:分担執筆 範囲:田んぼの文化と歴史)(緑書房、令和6年11月) ISBN978-4-86811-011-8
	島谷 幸宏・谷田 一三・一柳 英隆・萱場 祐一『凶説河川災害と復興:自然環境の再生と持続社会』(担当:分担執筆 範囲:解説編31災害とくらし)(朝倉書店、令和6年9月) ISBN9784254261790
大学出講	阿見 雄之・北岡 タマ子・田良 島哲・福島 幸宏・本間 友・山内 利秋『ミュージアムの未来をつくる博物館情報・メディア論』(担当:分担執筆 範囲:6-2. ギャラリートーク・ワークショップ等の教育業務のメディア論)(美術出版、令和7年3月)
	甲南大学「博物館展示論」(通年)
	甲南大学「博物館実習」(通年)
	三重大学「博物館情報メディア論」(通年)
	びわこ学院大学「滋賀の環境」(通年)

学芸員の館外における社会貢献活動

北村 美香

口頭発表	「地域の宝は地域で守る!地域資料レスキューからのコミュニティづくり」口頭発表 第14回公募助成成果発表会、JR西日本あんしん社会財団 令和6年8月5日、大阪市内
	「ミュージアムと地域をつなぐいま起きていること、これからできることー滋賀の事例から考えるー」 講演 明治大学大学院文学研究科主催公開講座 令和6年11月25日、明治大学(東京都)
	「水損資料対応の20年を振り返る」口頭発表、パネルディスカッション 全国史料ネット研究交流集会第2セッション 令和7年1月13日、神戸大学
	「何かしたい」気持ちをつなげるきっかけづくりー水損資料レスキューに向けての取り組みー」 口頭発表 きしわだ自然資料館第22回メランジェゼミ 令和7年2月16日、きしわだ自然資料館
	明治大学大学院文学研究科主催公開講座「ミュージアムと地域をつなぐいま起きていること、これからできることー滋賀の事例から考えるー」講演 令和6年11月25日、明治大学(東京都)

西尾 大樹

論文等	西尾大樹「豪農茨田氏の野崎観音信仰」(『大塩研究』第91号、令和6年9月)
学会発表	「初期郡山藩をめぐる諸問題」(織豊期研究会第117回報告会、令和6年11月26日)
講演	NHK文化センター梅田教室「歴史を彩る古文書～古文書学 戦国武将の手紙に学ぶ～」(4月～令和7年3月)

月別入館者数

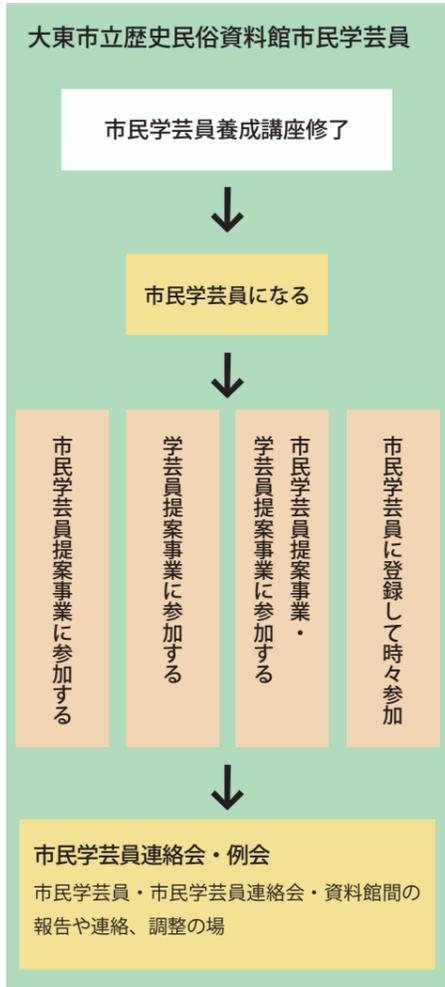
月	開館日数	一般来館者数			団体来館者数			事業参加者数	来館者数合計
		大人	子ども	計	大人	子ども	計		
4月	28	785	69	854	0	0	0	147	1,001
5月	29	1,128	85	1213	31	0	31	204	1,448
6月	28	672	61	733	27	0	27	360	1,120
7月	29	617	86	703	0	0	0	141	844
8月	29	830	103	933	11	0	11	121	1,065
9月	28	769	92	861	0	0	0	168	1,029
10月	29	635	48	683	26	0	26	361 (内, 館外 280)	790
11月	28	810	45	855	0	0	0	234 (内, 館外 180)	909
12月	26	671	37	708	0	0	0	167 (内, 館外 101)	774
1月	26	751	119	870	4	46	50	406 (内, 館外 3)	1,323
2月	26	765	189	954	0	0	0	606 (内, 館外 115)	1,445
3月	29	930	125	1055	0	0	0	215 (内, 館外 0)	1,270
合計	335	9,363	1,059	10,422	99	46	145	3,130	13,018



I 館報

2 市民学芸員事業報告

2024



市民学芸員連絡会会議

令和6年8月4日(日)、11月3日(日)、令和7年2月2日(日)
13時30分～14時00分

参加者数 / 5名(延べ人数)
出席者 / 森田拓馬、森井綾乃、鮫島早葵、木村大輔、市民学芸員提案事業代表者
内容 / 市民学芸員交流会に際し、事前に報告や連絡を行う調整会議。

市民学芸員交流会

令和6年4月14日(日)、8月4日(日)、11月3日(日)、令和7年2月2日(日) 14時00分～16時00分

参加者数 / 64名(延べ人数) 登録者数 / 37名
内容 / 各隊の活動内容や、今年度の各活動予定について話し合った。また学芸員が講座や企画展案内を行った。

市民学芸員 研修(京都芸術大学見学)

令和6年8月6日(火) 13時00分～16時30分

参加者数 / 13名
内容 / 京都芸術大学に修復を依頼している平野屋新田会所杉戸絵の修復作業を見学し、市職員、市史編纂委員、市民学芸員と館スタッフで訪問。杉戸絵だけでなく、大学が所有する分析装置の見学も行った。



学芸員提案事業「だいとうもめん隊」

令和6年4月23日(火)、5月2日(木)、14日(火)、6月11日(火)、7月9日(火)、9月10日(火)、10月8日(火)、11月12日(火)、12月10日(火)、令和7年1月14日(火)、3月25日(火) 14時00分～16時00分

参加者数 / 23名(延べ人数)
担当 / 森井綾乃
内容 / 平成30年から継続して取り組んでいる、ワタの栽培を行う活動。ワタの手入れを行った。



学芸員提案事業「収蔵庫整理隊」

令和6年4月23日(火)、6月25日(火)、7月23日(火)、9月24日(火)、10月22日(火)、11月26日(火)、令和7年1月28日(火)、2月25日(火)、3月19日(水) 14時00分～16時00分

参加者数 / 51名(延べ人数)
担当 / 鮫島早葵、森田拓馬
内容 / 民俗収蔵庫の棚卸作業および収蔵庫の整理作業を行った。



学芸員提案事業「作り隊」

令和5年4月28日(日)、5月12日(日)
10時00分～13時00分、10時00分～12時00分

参加者数 / 13名(延べ人数)
担当 / 森田拓馬
内容 / 敷地内での木綿栽培で使用する畑用の柵を作成した。



学芸員提案事業 「古文書隊」

令和6年5月10日(金)、26日(日)、6月7日(金)、23日(日)、
7月12日(金)、28日(日)、8月9日(金)、9月13日(金)、
29日(日)、10月11日(金)、27日(日)、11月8日(金)、
12月13日(金)、令和7年1月26日(日)、2月14日(金)、
23日(日)、3月14日(金)、30日(日)

14時00分～16時00分

参加者数 / 119名(延べ人数)

担当 / 木村大輔、西尾大樹

内容 / 平成30年度より継続して、龍間・経寺地区旧蔵の古文書翻刻作業を行った。また専応寺下張り文書の翻刻作業と龍間・経寺地区旧蔵のだんじり関係古文書のデジタル打ち込み作業を行った。



学芸員提案事業 「何かし隊」

令和6年7月14日(日) 13時00分～16時30分

参加者数 / 6名

担当 / 鮫島早葵

内容 / 夏展で展示する民俗資料のクリーニングを行った。



学芸員提案事業 「御領調査隊」

令和6年9月15日(日)、10月20日(日)、12月7日(土)、
令和7年1月5日(日)、2月2日(日)、3月2日(日)

14時00分～16時00分

参加者数 / 13名(延べ人数)

担当 / 森田拓馬、鮫島早葵

内容 / 令和7年度秋季企画展に向けての調査等の活動。



市民学芸員提案事業 「糸車チーム」

令和6年4月5日(金)、19日(金)、5月3日(金祝)、
17日(金)、6月7日(金)、21日(金)、7月5日(金)、26日(金)、
8月2日(金)、26日(月)、9月16日(月祝)

11時00分～16時00分

参加者数 / 56名(延べ人数)

参加者 / 磯野良隆、川人美智子、楠公子、澤井嘉子、
柴田俊雄、富増由起子

担当 / 森田拓馬

内容 / 去年から作っていた糸車が完成しました。作った糸車は、台座が手前に大きく傾いた形のもので、切り出した材料を部品に加工して組み立てましたが、車輪を作る作業に時間がかかりました。この形でも無理なく糸が紡げることを確認したあと、市民学芸員交流会で展示と実演をして活動を終わりました。(原稿：楠公子)



市民学芸員提案事業 「石造物・民話チーム」

令和6年4月25日(木)、5月23日(木)、6月27日(木)、
7月25日(木)、9月12日(木)、10月24日(木)、
12月20日(金)、令和7年1月23日(木) 活動時間不定期

参加者数 / 35名(延べ人数)

参加者 / 上野 繁、栗山 登志子、寺原 千佳子、中川 美保、
中村 義之、林田 恵子、平嶋 貞子、吹上 正世、
水永 八十生

担当 / 木村 大輔

内容 / 前年度より引き続き各自のテーマに応じて調査
活動を行う。

目標 : 冊子に纏め、次年度の秋頃に、完成予定。冊子は手
作り作業の為、量産は出来ないが市域の図書館に配
布予定。

活動 : 全体の活動日は毎月第四木曜日他、資料作成のため
の個人活動4月25日午前10時~午後2時寺川・中
垣内の石造物と歴史等の現地調査、5月23日午前
10時~午後1時 深野南方面の石造物と歴史等の現
地調査今回で旧四条地区8カ村を含み地域の勉強会
を終え、各自のテーマに基づき個人調査とする。1
月23日午後2時~4時各自の現況届用の資料作成
の提出。資料の修正等も含め、秋には冊子予定とし
次年度へ引き続き個人活動とする。(原稿:林田 恵子)



①坐摩神社調査



②大谷神社第一鳥居調査



市民学芸員提案事業 「野崎街道チーム」

令和6年10月4日(金)、11月15日(金)、12月12日(木)、
令和7年1月31日(金)、2月13日(木)、3月17日(月)
活動時間不定期

参加者数 / 19名(延べ人数)

参加者 / 栗原 妙子、柴田 俊雄、竹元 智子、林田 恵子、
吹上 正世、水永 八十生

担当 / 木村 大輔

内容 / 2024年春、千林商店街の大看板に「野崎街道」
という言葉を見つけました。大阪からの野崎詣りに使う道
は「古堤街道」のみとっておりましたが、ずばり「野崎
街道」と言われている道があることに驚きました。文献は
無く、インターネットのSNSの少ない情報を頼りに道の
見当をつけました。木村さんに相談をすると「今昔マップ」
というウェブサイトを教えていただき、今の地図と照らし
合わせてみると残っている道が多くあり、明治時代の道を
たどれば近い「野崎街道」が見えるかと思い、歩いてみ
ることにしました。11月、京阪千林駅の横の「野崎ガード」
と呼ばれる高架下の道から東へ野崎観音を目指しました。
12月、翌年1月の計3回で約11kmを8時間で歩くこと
ができました。当時の健脚であれば2~3時間で歩けるの
ではないか、道は平坦で歩きやすく、ほぼ真っ直ぐなので
野崎観音が見えていたかと思うと、当時の人たちにとっ
ては楽しい小旅行だったのではないかと想像できました。
(原稿:竹元 智子)



令和6年度春季企画展「野崎観音信仰の広がり」と大塩平八郎門下の豪農」展示関連事業風景

II 展示報告

森田 拓馬

森井 綾乃

木村 大輔

2024

令和6年度夏季企画展

「新田会所をとりまくヒトとモノ～平野屋新田会所から～」展示報告

森田 拓馬

令和6年（2024）7月20日から9月8日まで、大東市立歴史民俗資料館（以下、当館）3階企画展示室において、夏季企画展「新田会所をとりまくヒトとモノ～平野屋新田会所から～」を開催した。本展は、大東市と平野屋新田会所市民サポーター会議との共催事業で、大東市の歴史や地域社会の成り立ちに密接に関わる「新田会所」、特に市史跡である平野屋新田会所跡を中心に据え、その役割や、そこに住む人々の営み、そして現地に残るモノを通じて、地域の歴史・文化を広く市民に伝えることを目的とした。（写真1）

企画展開催の趣旨・目的

本展示は「ヒト」と「モノ」の両視点から新田会所の実像に迫る構成とした。江戸時代以降、河内地方では大和川付替えを契機とした新田開発が進められ、そこに設置された新田会所が村の運営・管理の要となった。しかし新田会所の果たす具体的な役割について、市民の間で十分理解されているとは言い難い。今回の企画展は、平野屋新田会所が果たした多様な機能を歴史資料や現存するモノを通じて分かりやすく紹介し、また会所跡の保存活用計画や、現代技術による文化財の保存活動も併せて伝えることで、地域の歴史や文化の継承・発展を知る機会と位置付けた。

また、本年は銭屋高松家が平野屋新田会所を取得して

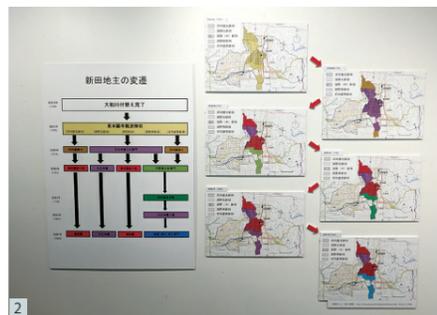
から200周年の節目にあたり、これを記念する意義ある展示ともなった。現在では住宅地として分譲・活用されているため上屋は残っていないものの、図面や写真、デジタル処理画像などを駆使して、未来へと繋ぐ情報発信にも努めた。

展示構成と主な内容

企画展示は大きく以下の章から構成した。

序章 新田の成立と発展

まず新田開発の背景として、大和川付替え前後の地形変化や新田の開発経緯、大東市域の新田会所所有者の変遷に焦点を当てた。大和川付替え前の大東市域の様子を表した史料では、貝原益軒が元禄2年（1689）に京都から岸和田を巡った記録とされる「南遊紀行」が代表的だが、本展では深野池で漁をしている様子などが描かれている「河内名所鑑」（延宝7年（1679））を展示した。また、旧深野池に成立した5つの新田開発の経緯などを大和川付替えから約100年後の文化2年（1805）に記した「深野南新田・河内屋南新田明細帳」を展示した。序章の最後には、新田地主の変遷を示す模式図と、それに対応する地図を使って市内の新田開発地域を視覚的に表した。（写真2）



第一章 新田経営と会所の役割

ここでは新田の経営実態、会所の支配人と下作人、オーナーとの関係性を紹介する他、会所が有していた土地や道具、災害時に担った役割について触れた。「当新田作法証文」の内容から、新田地域でのルールやマナーなどを誓約させたことがうかがえる。（写真3）

文書、帳簿などの史料を通じて、村の運営の中核となった会所の存在意義を明らかにした。会所は地域社会の行政のみならず、経済・災害対応・人々の生活全般に関わる重要な拠点であったことを示した。

第二章 信仰を支える会所

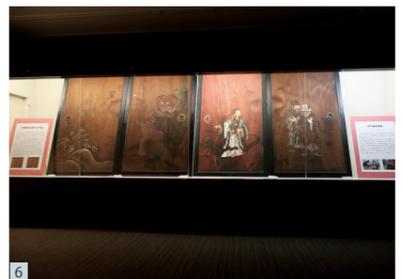
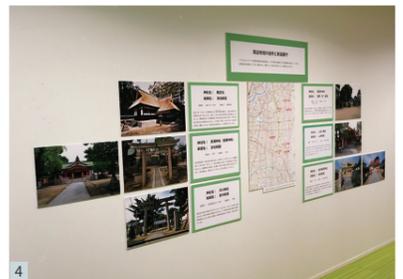
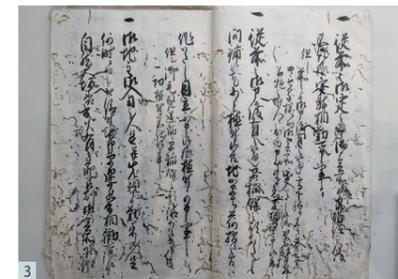
廊下部分では、会所に勧請された坐摩神社が地域の鎮守社となった経緯や、先祖供養の資料（祖塔・祖堂）を通じて、会所における信仰の変遷を紹介した。地域コミュニティの精神的な支えとしての会所の側面に注目し、民間信仰と会所の繋がりを浮き彫りにした。以上の内容を企画展示室①と廊下にまたがって展示を行った。また、「周辺地域の会所と新田鎮守」コーナーでは、大東市内に限

らず周辺地域に今も残る新田会所と関わりの深い神社を取り上げた。（写真4）会所は既に役割を終えていたり会所建物が存在しないながらも、信仰の対象として地域のよりどころとなった鎮守が今も残されているケースを紹介した。

廊下奥側は共催団体の平野屋新田会所市民サポーター会議による展示エリアに設定し、蓄積してきた記録を元に「平野屋新田会所周辺に残る樋門・笠石」「深野池五新田の記憶」コーナーで、会所周辺の水路や樋門の現在の姿を写真や地図パネルで紹介し、現地に残るインフラの歴史的価値も伝えた。（写真5）

第三章 よみがえる平野屋新田会所

企画展示室②では、平野屋新田会所で使用されていた杉戸絵の修復作業を中心に、現代技術を用いた文化財保存の現場を紹介した。杉戸絵4点のうち経年劣化により破損した1点は修復中だったため、修復中の資料は原寸大に出力したパネルで代用した。（写真6）修復過程の様子を画像提供してもらい、文化財を守る現在の技術を取



り上げた。

そのほか、上屋が残っていない現状を補うため、残された図面や写真、さらにデジタル処理画像やCG映像を活用し、かつての平野屋新田会所の姿を表した。失われた文化財の記憶を、次世代に継承する技術を示した。

展示関連事業と成果

展示期間中には各種関連イベントも実施した。展示に関わった学芸員によるミュージアムトーク(展示解説)や、平野屋新田会所跡に関わる連続講座に多くの市民の参加を得た。(写真7)3回の連続講座と、最終日にはシンポジウムも企画していたが台風接近による交通網の寸断を警戒して延期となったため、半年以上後の2025年3月に実施となった。これらの事業は、展示内容の理解を深めるとともに、市民の郷土意識や保存活動への関心を高める契機となった。展示関連事業への一般参加者は合計87名だった。

まとめ

今回の夏季企画展「新田会所をとりまくヒトとモノ」は、地域の歴史的資源を掘り起こし、会所を中心とした人々の営みや信仰、道具や建築物などの「モノ」を通して、

過去から現代、そして未来への橋渡しとなる展示を実現した。平野屋新田会所をめぐる「ヒト」と「モノ」の多彩なストーリーは、地域社会の成り立ちとその魅力を再発見する好機となった。今後も当館は、地域史と文化の発信拠点として、これらの活動を継続し発展させていきたい。

謝辞

本展示を開催するにあたり、下記の方々に多大なるご協力をいただいた。記してお礼申し上げます。

〈機関〉大阪府立中之島図書館、柏村稻荷神社、柏原市立歴史資料館、学校法人瓜生山学園京都芸術大学、鴻池合資会社、坐摩神社、渋川神社、長瀬神社、東大阪市文化財課、安中新田会所跡旧植田家住宅、山本八幡宮、両皇大神社

〈個人〉岩間香、大林賢太郎、岡村喜史、大洞優平、廣本美紗子、松本裕、溝邊悠介、ルフェーブル・エリック

〈市民学芸員〉川崎朋子、竹元智子、檜垣一美、平尾和久、平尾寿美子、水永八十生



令和6年度秋季特集展「れきみん的风景写真鑑賞のすすめ ～写真家が見た、御領・門真の昔ながらの風景～」実施報告

森井 綾乃

はじめに

大東市立歴史民俗資料館（以下、当館）は、令和6年度秋季特集展として、「れきみん的风景写真鑑賞のすすめ～写真家が見た、御領・門真の昔ながらの風景～」(以下、特集展)を令和6年(2024)11月2日(土)から12月8日(日)までの34日間にわたり開催した(図1、2)。会場は当館の企画展示室一室のみであったが、多くの方々にご来場いただいた。本特集展は、昭和50年代頃に門真市三ツ島地区にお住まいであった写真家、出水伯明氏が捉えた貴重な御領地区の風景写真群と、当時使用されていた撮影機材を展示の中心とし、来館者の皆様に写真の奥深い魅力と、そこから読み解ける地域の歴史や人々の暮らしをご紹介することを目的として企画した。加えて、株式会社樹林舎が同時期に刊行した写真集『写真アルバム 守口・門真・大東・四條畷の昭和』に掲載されている懐かしい古写真のパネル展示も併せて実施し、地域の記憶を多角的に辿る機会を提供した(図3)。

展示構成

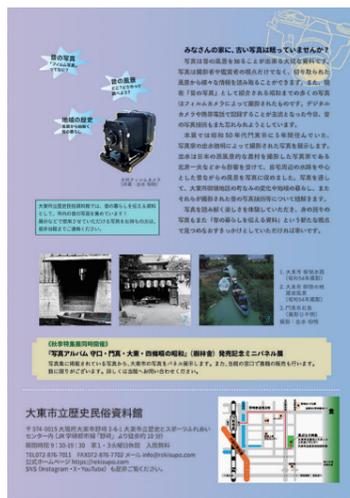
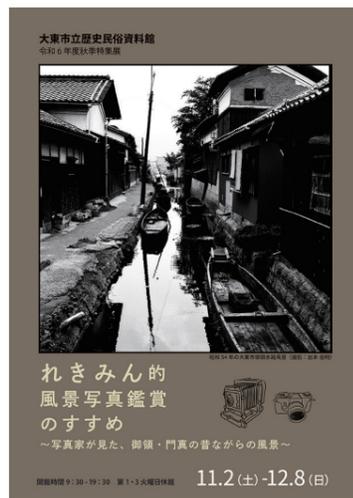
展示は、「第1章 昔の写真技術」「第2章 写真家が見た風景」「第3章 写真にまつわるモノとコト」「おわりに～時代を伝える写真撮影のすすめ～」という4つのコーナーで構成した。近年、写真撮影はデジタルカメラやスマートフォンが主流となり、フィルムカメラに触れたことのない若い世代が増加している現状を踏まえ、第1章ではまずフィルムカメラ本体をはじめ、様々な種類のフィルム、現像処理に使用する薬品、完成したスライドフィルムといった資料を様々な人のエピソードを添えて展示した(図4)。さらに、フィルムカメラの種類ごとの特徴や、適切なフィルムの保管方法、かつてフィルムカメラを日常的に使用していた方々の記憶などを紹介することで、フィルム写真に関する基礎知識や背景について理解を深めていただくことを意図した。また、当館と関わりの深い人物のフィルム写真にまつわるエピソードとして、かつて大東市内でフィルム写真の現像・プリント業を営んでいた大東フォトスタジオの現店主様、長年

にわたり市内の古文書調査のためにフィルムカメラで記録撮影を行っている大東市史編纂委員の岡村喜史氏、そして大東市の発掘調査の現場記録をフィルムカメラで撮影している生涯学習課職員の黒田淳氏の3名にインタビューを実施し、それぞれの貴重なフィルム写真の記憶とともに、関連する実物資料も展示した。一口に「フィルムカメラ」と言っても、その時代背景や技術革新により多種多様な機種が存在したため、それらを年表形式で分かりやすく紹介した。

続く第2章では、本特集展の中心となる出水伯明氏が撮影された数々の風景写真を展示するとともに、当時使用されていた愛用の撮影機材も併せて展示した(図5)。出水氏の写真は、氏が門真市三ツ島地区にお住まいであった昭和50年代頃から、御領地区の区画整理事工が進む時期にかけて撮影されたもので、現在では見ることができない貴重な昔ながらの家並みや風景が記録されている。出水氏は、写真家の北井一夫氏をはじめとする写真家たちが捉えた日本の原風景的な農村の情景に感銘を

受け、自身の住居周辺の水路を中心とした、日常の風景を丁寧に写真に収めた。展示では、これらの写真が撮影されたおおよその地点を地図上で示すとともに、GoogleマップのQRコードを付与することで、鑑賞者が現在のストリートビューでその場所を確認したり、実際に足を運んで往時の面影を探したりすることができるような工夫を凝らした(図6)。さらに、鑑賞者自身が写真に写っている地域について主体的に読み解く体験コーナーを設け、大東市の市史や文化財に関するガイドブックなど、地域に関する様々な資料を自由に閲覧できるように設置した(図7)。これらの資料の中には、インターネット上で公開されている情報も含まれていたため、それらにはQRコードを付与し、展示室を出た後も自宅などでじっくりと見ることが可能となるように配慮した(図8)。

第3章では、出水氏の写真が捉えた大東市御領地区について、歴史民俗資料館的な視点から読み解いた内容を紹介した(図9)。具体的には、地域の変遷を語る上で重要な要素である区画整理の経緯、かつて盛んであった運



根作り、そして地域を特徴づける水路などに焦点を当て、解説した。また、写真に写っている道具の大きさや素材感をより具体的にイメージすることが出来るように、近隣の大阪府営深北緑地公園に生育する蓮の葉を展示するとともに、当館の収蔵資料の中から蓮根作りに用いられた様々な道具を選び出し、その具体的な使用方法と合わせて紹介した(図10、11)。御領地区はかつて蓮根栽培が盛んに行われ、現在も段蔵^{だんぐら}と呼ばれる貯蔵庫や、縦横に走る水路といった昔ながらの水郷の風景を色濃く残す地域として知られている。しかしながら、出水氏の写真には蓮根作りの様子は記録されておらず、むしろ隣接する門真市でのみその記録が確認された。出水氏の記憶によれば、御領においては氏が撮影を開始した当時、すでに蓮根作りは行われていなかったとのことであった。そこで、当時の状況を多角的に把握するため、実際に御領地区で蓮根作りを行っていた地元住民の方々や、子供の頃に親の蓮根作りを手伝っていたという地元住民の方々

にもインタビューを実施した。取材を進める中で、御領で蓮根作りが行われなくなった時期、土地区画整理事業が行われる前後の地域の様子、そして区画整理前後の地域の記録写真集など、貴重な情報をご提供いただくことができた(図12)。これらの住民の方々の記憶によると、御領での蓮根作りは昭和40年代前半には既に途絶えていたとのことであり、出水氏の記憶とも合致した。さらに、文献資料として『大阪府農業史』(昭和57年(1984))を参照したところ、大阪府における蓮根の収穫量が最も多かったのは昭和31年(1956年)であることが記録されていたが、今回の調査の過程でその前年である昭和30年の南郷村耕地台帳を発見し、当時南郷村の住民が蓮根栽培のために利用していた耕地の所有状況などを詳細に把握することができた。

最終章となる「おわりに」では、本特集展を通して紹介してきた写真が持つ情報の重要性や、その活用事例を改めて提示した(図13)。そして、現代においては日常

的な存在となった写真が、将来の世代にとって貴重な歴史資料となり得ることを改めて強調するとともに、後世に地域の姿を伝えることのできるような写真の撮影や、そうした写真資料の提供を来館者に呼びかけた。

実施結果

本特集展の開催期間34日間の総入館者数は、大人1,028名、子ども48名の合計1,076名となった。会期中の11月29日(金)には、毎日新聞朝刊の大阪地域面(河内)の「情報プラザ」コーナーにおいて、本特集展の内容をご紹介いただくことができた。今回の展示では、来館者アンケートにご協力いただいた方のほとんどが初めて当館を訪れた方々であった。過去の展示アンケートと比較すると、カメラや写真に対する関心の高さを示す記述が散見され、写真をテーマとした本特集展が新たな来館者の獲得に繋がった可能性が示唆された。また、20代の回答者からは「2年前に岡山県から引っ越してきて、ここがどんな町か、今回の展示ではじめて知ることができました。写真は今の町と見比べることができてとっても楽しかったです。」「知らない時代を知れて楽しかった。いっぱい写真を撮りたくなった。」といった好意的な感想をいただき、展示内容にご満足いただけたとともに、写真記録や資料提供の呼びかけという本特集展の趣旨が、来

館者にしっかりと伝わったように感じられた。本特集展を開催するにあたり、年度当初に発行された市の広報誌を通じて、古写真の提供をお願いする告知を行ったが、残念ながら一般の方からの資料提供には至らなかった。この点は今後の課題として、引き続き資料提供の呼びかけを行っていく必要があると考えている。

今後も、本特集展を通して改めて認識された写真が持つ「時代を伝える貴重な力」に着目し、市民からの写真資料の提供を粘り強く呼びかけ、地域の歴史や文化を未来へと繋ぐ活動を継続して取り組みたいと思う。

最後になるが展示を開催するにあたり、下記の方々に多大なるご協力をいただいた。記してお礼申し上げる。

展示協力者(敬称略)・50音順

団体

御領地区の皆様、大東市関係各所の皆様、大東市立東部図書館、深北緑地(指定管理者:深北緑地パートナーズ)

個人

氏原稔夫、岡村喜史、竹元智子、田中祥昭、辻本賢徳、辻本年治、辻本壽一、出水伯明、寺原千佳子、中西正憲、橋本正光、溝口泰子(大東フォトスタジオ)、頼尊明美、頼尊久雄



令和6年度秋季特集展「れきみん風景写真鑑賞のすすめ～写真家が見た、御領・門真の昔ながらの風景～」

展示品リスト

第1章 昔の写真技術

	名称	員数	所蔵
1	135 フィルム (35mm) 白黒	1	個人
2	135 フィルム (35mm) カラー	1	個人
3	リレーズ	1	個人
4	一眼レフカメラ (35mm)	1	個人
5	一眼レフカメラ (35mm)	1	個人
6	ハーフサイズカメラ (一眼レフカメラ)	1	個人
7	コンパクトカメラ (レンジファインダーカメラ)	1	個人
8	現像済フィルム (35mm)	1	個人
9	現像済フィルム (ハーフサイズ)	1	個人
10	二眼レフカメラ・ケース	1	大東市
11	現像済みフィルム (6×6)	1	個人
12	110 (ワンテン) カメラ	1	個人
13	110 (ワンテン) カメラ	1	個人
14	110 (ワンテン) カメラ	1	個人
15	110 (ワンテン) フィルム	1	個人
16	現像用薬品	1	大東フォトスタジオ
17	現像用薬品	1	大東フォトスタジオ
18	APS フィルム	1	大東フォトスタジオ
19	スライド	一式	個人
20	露出計	1	個人
21	閃光電球	一式	大東フォトスタジオ
22	エレクトロニックフラッシュ	1	個人
23	ハーフサイズカメラ	1	大東フォトスタジオ
24	ハーフサイズカメラ	1	個人
25	コンパクトカメラ (レンジファインダーカメラ)	1	個人
26	コンパクトカメラ	1	個人
27	一眼レフカメラ	1	個人
28	インスタントカメラ	1	個人
29	デジタルカメラ	1	大東フォトスタジオ
30	レンズ付きフィルム	1	大東市立歴史民俗資料館

第2章 写真家が見た風景

	名称	員数	所蔵
31	北井一夫著『村へ』	1	出水伯明
32	入江泰吉著『入江泰吉の大和路5 (祭と歳時記)』	1	大東市立図書館
33	牧田茂編著『日本の祭り⑤近畿I』	1	出水伯明
34	出水伯明編・写真『海上の巨大クレーンこれが起重機船だ 数千トンを釣り上げる "職人技の世界"』	1	大東市立図書館
35	135 フィルム (35mm) 白黒	1	個人
36	135 フィルム (35mm) カラー	1	個人
37	一眼レフカメラ (35mm)	1	出水伯明
38	中判一眼レフカメラ	1	出水伯明
39	120 フィルム	1	個人
40	シートフィルム (4×5) カラー	1	大東フォトスタジオ
41	シートフィルム (4×5) カラー	1	大東フォトスタジオ

第2章 写真家が見た風景

	名称	員数	所蔵
42	カットフィルムホルダー	1	出水伯明
43	大判カメラ (フィールドカメラ)	1	出水伯明
44	フィルム写真	29	出水伯明
45	空中写真	2	大東市
46	空中写真	2	大東市
47	空中写真	2	大東市
48	『大東市埋蔵文化財調査報告第15集 御領遺跡―御領地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』	1	大東市立歴史民俗資料館
49	『大東の民具 (米づくり・蓮根作り民具)』	1	大東市立歴史民俗資料館
50	橋本實著『御領まほろば 野面に生きた私の見聞誌』	1	大東市立歴史民俗資料館
51	『大東市文化財ガイドブック 第一集「石の文化財」』	1	大東市立歴史民俗資料館
52	『大東市文化財ガイドブック 第二集「大東の伝承文化」』	1	大東市立歴史民俗資料館
53	『大東市文化財ガイドブック 第三集「大東の絵馬」』	1	大東市立歴史民俗資料館
54	御領辻本家文書 (画像)	1	辻本家
55	『大東市史編纂史料集10 御領村辻本家文書』	1	大東市立歴史民俗資料館
56	『大東市史 近現代編』	1	大東市立歴史民俗資料館
57	『門真市史 第6巻 近現代本文篇』	1	大東市立歴史民俗資料館
58	『北河内ふるさとめぐり』	1	大東市立歴史民俗資料館
59	『門真市文化財ガイドブック』	1	大東市立歴史民俗資料館

第3章 写真にまつわるモノとコト

	名称	員数	所蔵
60	『大東市御領 地域写真集』	1	大東市立歴史民俗資料館
61	『大東市 御領土地区画整理事業 竣工』	1	大東市
62	蓮の葉	1	大東市立歴史民俗資料館
63	田舟 (イナオシ)	1	大東市
64	蓮根掘用手鋤 (スキ)	1	個人
65	蓮根掘用備中鍬 (ビッチュウ)	1	個人
66	田下駄	1	大東市
67	パーチカルポンプ (パチカル)	1	大東市
68	カラー写真	12	個人

おわりに～時代を伝える写真撮影のすすめ～

	名称	員数	所蔵
69	写真引き伸ばし機	1	大東市
70	白黒フィルム写真 (写真引き伸ばし機使用)	2	大東市
71	白黒フィルム写真	4	大東市
72	カラーフィルム写真	1	大東市
73	ネガアルバム	1	大東市

秋季特集展同時開催『守口・門真・大東・四條畷の昭和』発売記念 ミニパネル展

	名称	員数	所蔵
	白黒フィルム写真 (パネル)	32	樹林舎 (株)
	『守口・門真・大東・四條畷の昭和』	1	大東市立歴史民俗資料館

史料集『野崎観音慈眼寺文書』完結記念展 「野崎観音信仰の広がり」と大塩平八郎門下の豪農」の実施報告

木村 大輔

はじめに

本稿は令和6年(2024)4月13日(土)から5月26日(日)まで開催した、史料集『野崎観音慈眼寺文書』完結記念展「野崎観音信仰の広がり」と大塩平八郎門下の豪農」についての展示報告である。

当館ではこれまでも慈眼寺関連として、慈眼寺及び野崎まいるの歴史、お染・久松、伽藍の変遷、本末関係などに焦点を当てた展示を行ってきた。今回の展示は令和4年(2022)から令和6年にかけて刊行された史料集『野崎観音慈眼寺文書』(上・中・下巻)(以下、『史料集』と記す)の完結を記念して実施することから、展示テーマについても『史料集』で取り上げられてきた野崎観音を信仰する「人々」に焦点を当てた。なお、本展は大東市との共催展示である。

1. 展示構成

今回の展示は2つの章から構成されている。企画展示室1では第1章として「野崎観音信仰の広がり」、企画展示室2では第2章として「慈眼寺と茨田氏」をテーマに展示を行った。各章については、第1章で5つのコーナー(展示順に「寄進する多様な人と物」・「慈眼寺を支える講」・「大和郡山の武士井上宗秀」・「平戸の商人紙屋和三郎」・「大坂の町人山城屋三郎兵衛」)、第2章で3つのコーナー(展示順に「大塩の乱と茨田郡士」・「茨田一族と慈眼寺」・「郡士の最期と茨田氏のその後」)を設けた。また、企画展示室1と企画展示室2をつなぐ廊下部では、現在の慈眼寺の堂宇を写真パネルで紹介した。同時に境内に残る江戸期の寄進・供養石造物についても分布図で残存位置を示し、対象物を写真パネルで紹介した。

2. 展示内容

第1章 野崎観音信仰の広がり

第1章では野崎観音を信仰した「人々」に焦点を当て、

「どこに住む」、「どのような身分の人」から、「どういった物」が慈眼寺にもたらされたのかという点について上述の通り5つのコーナーを設けて展示を行った。

まず一つ目のコーナーである「寄進する多様な人と物」では、展示資料から江戸期における寄進者の所在地や寄進物数・寄進物種などが把握できることを紹介した。また、展示資料である「福聚山慈眼禅寺祠堂料帳」の記載情報をもとに寄進者の所在地及び寄進件数の分布図や、「慈眼禅寺交割牒」に記載された寄進物を一覧表にまとめ、それらを大型パネルに仕立て展示を行った。

二つ目のコーナーである「慈眼寺を支える講」では、江戸期の慈眼寺が個人だけでなく、「講」と呼ばれる組織によって支えられていることを紹介した。また、慈眼寺に関わる講には、参詣や寄進を主目的とするものと、堂宇修繕における費用支援のための一義的なものが存在したことを紹介した。

三つ目のコーナーである「大和郡山の武士井上宗秀」では、大和郡山藩の武士井上宗秀(以下、井上と記す)を通じて、武士による寄進に焦点を当てている。このコーナーに展示した3点の資料は、貞享年間(1684-1688)の井上による慈眼寺への土地寄進に関する一連の文書である。これら井上に関わった資料は、一人の人物による寄進の経緯を詳細に辿ることができる。それ故に武士による寺院への寄進行為の一形態を示すものとして紹介した。また、井上の名前は「慈眼禅寺交割牒」にも見えることから、記載箇所をパネル化して展示した。

四つ目のコーナーである「平戸の商人紙屋和三郎」では、遠方の商人による野崎観音信仰の事例として、肥前国平戸の商人である紙屋和三郎を紹介した。紙屋和三郎が寄進したものとして、慈眼寺境内南門の前に配置されている2基1対の石灯籠(安永6年(1777)に寄進)がある。また、紙屋和三郎は「日牌月供施入之扣并寄附祠堂共」(以下、日牌月供と記す)によって「大石燈籠二

ツ常夜燈油料」として金10両を寄進していたことや、翌年の安永7年6月20日に亡くなったことなどが確認できる。このコーナーについては原品資料を展示せず、石灯籠も他のコーナーで原品展示を行った日牌月供もパネル化して展示をおこなった。それでも文献史料上における記録と、現存する「モノ」資料とが一致する大変貴重な事例であることから、今回は一つのコーナーを設けることとした。

最後の「大坂の町人山城屋三郎兵衛」のコーナーでは、大坂順慶町住の山城屋三郎兵衛という商人が宝暦10年(1760)に寄進した軒平瓦の原品と、翌宝暦11年に寄進した木造釈迦如来坐像の写真パネルを展示した。山城屋三郎兵衛も日牌月供に名前が確認できる。これもまた、文献史料に現れた人物と同一人物が寄進した物品が現存している事例として紹介した。

第2章 慈眼寺と茨田氏

野崎観音を信仰する人々の中には、地方の有力者も存在しており、個人としてばかりではなく、一族で代々長期間にわたって慈眼寺に深く帰依した家も存在した。この章ではその代表的な例である河内国門真三番村の茨田氏に焦点を当てる。茨田氏は持高60石を有する豪農でありながら、武家に出仕し、帯刀を許されるなど、武士としての性格をも併せ持つ家柄であった。江戸後期には、天保8年(1837)2月19日に発生した大塩平八郎の乱に名を連ねた、茨田郡士(11代栄信)を輩出している。これまでも、慈眼寺文書だけでなく、茨田家に伝えられた文書からも、両者の間に深いつながりがあったことが知られていた。そこで本章では、茨田氏と慈眼寺双方に残された資料を初めて併せて展示することで、茨田家歴代による慈眼寺信仰の歴史を、3つのテーマに沿って見ていく。

一つ目のコーナーである「大塩の乱と茨田郡士」では、

いて紹介した。また、11代栄信の大塩平八郎の乱への参加が、茨田家にとって大きな転換点となったことから、このコーナーでは大塩平八郎の乱そのものについての説明と、大塩平八郎の乱と茨田郡士(11代栄信)との関係について展示をおこなった。

二つ目のコーナーである「茨田一族と慈眼寺」では、茨田家と慈眼寺との由緒や、深い関係にあったことを紹介している。またこのコーナーでは、慈眼寺への金銭の献上や寄進についても紹介した。そのなかで実際の寄進物として展示したのが、今展示のメイン展示物とも言える「茨田郡士・山城屋三右衛門寄進灯籠」である。この寄進灯籠は慈眼寺本堂に入って正面の本尊が安置されている空間の両脇に現在配置されている金属製の台灯籠である。令和5年(2023)1月、塗装の修繕を行う際、劣化していた表面の塗料を剥がしたところ、寄進銘が新たに発見された。

本尊に向かって右側のものは、茨田家第9代の郡士栄武、左側は大坂順慶町に住む山城屋三右衛門(第1章で紹介した山城屋三郎兵衛の子と考えられる)によるもので、慈眼寺第7世泰峯の代にあたる天明6年(1786)4月に2基1対で寄進された。両者とも先代から慈眼寺の信者であることが共通しており、野崎観音信仰を通じた両家の繋がりが想定される。茨田家による信仰の痕跡を「モノ」として残す貴重な新発見の資料である。

最後のコーナーである「郡士の最期と茨田氏のその後」では、大塩平八郎の乱後の茨田郡士の動向について紹介した。今展示の最後の資料が「茨田ひろ位牌」である。茨田郡士が大塩平八郎の乱に参加したことで、茨田家も処分を受けるが、村をあげての支援により再興され、茨田ひろが亡くなる昭和44年(1969)年まで存続した。この「茨田ひろ位牌」が慈眼寺に安置されていることから、大塩平八郎の乱を乗り越え、茨田家と慈眼寺との関係は長く続いていたことを伝える資料である。

3. 関連事業

今回の展示における関連事業として展示図録を作成した。本図録の企画及び執筆は岡村喜史氏（大東市史編集委員）、佐々木拓哉氏（大東市）、松迫寿氏（大東市）、西尾大樹（当館学芸員）、木村大輔（当館学芸員）が行った。内容は、総説、コラム4編、展示資料図版、展示資料解説などから成っている。

展示期間中の関連事業としては、令和6年4月28日（日）に展示解説・慈眼寺境内の案内を展示担当学芸員である西尾大樹・木村大輔で行った。令和6年5月11日（土）には大東市史編集委員の岡村喜史氏による展示関連講演会「野崎観音信仰の広がり」を大東市立歴史とスポーツふれあいセンター4階多目的室1にて開催した。また、令和6年5月18日（土）には門真市立歴史資料館学芸員の常松隆嗣氏による「大塩平八郎と門人たち」と題した展示関連講演会を同じ会場で開催した。

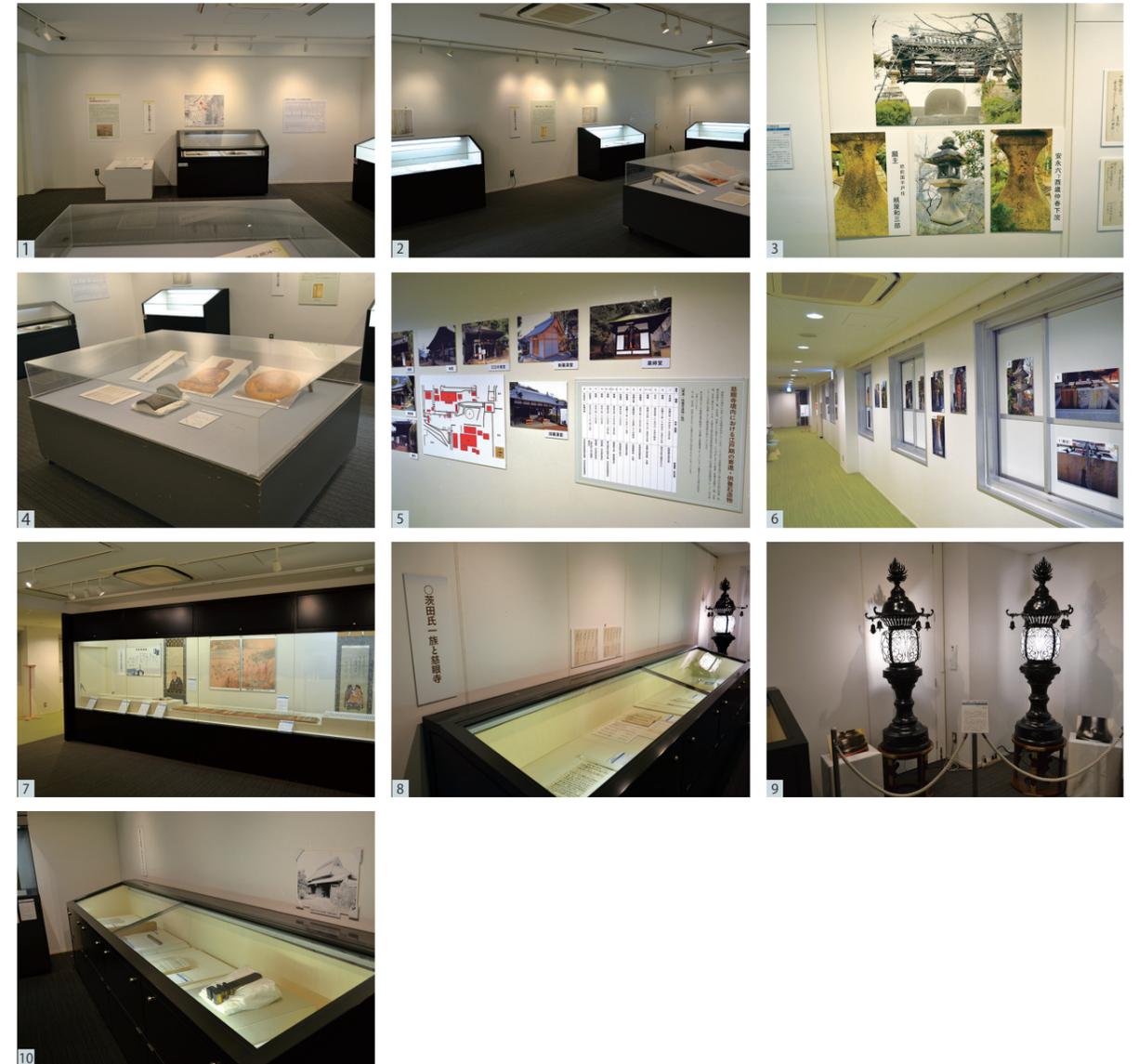
おわりに

今回は史料集『野崎観音慈眼寺文書』完結記念展と銘

打つての展示であった。その点について史料集の内容を色濃く反映したものが第1章の展示であったと言える。また、第1章で展示した原品資料の多くが、これまでの慈眼寺に関する展示において出品された既出資料であった。しかし、今回の展示では野崎観音を信仰する「人々」という新しい視点でアプローチを試みたことで、既出資料であっても目新しさのある展示構成となったのではないだろうか。

目新しさという点では、第2章は際立っていた。野崎観音を信仰する「人々」という共通した視点を踏まえながら、茨田郡士や大塩平八郎の乱といった、当館ではこれまで取り上げてこなかった人物や事象に焦点を当てた展示が行われた。展示資料もまた、これまで取り上げてこなかった人物や事象に関わるものであるため、多くの新出資料や初公開資料を展示することが出来た。

このように新しい視点を全体的に、もしくは部分的にでも取り入れていくことによって、新規来館者の創出はもちろんのこと、既存来館者に対しても飽きさせない展示を心がけていきたい。



史料集『野崎観音慈眼寺文書』完結記念展「野崎観音信仰の広がり」と大塩平八郎門下の豪農」の展示資料一覧

章	コーナー	史料名	所蔵	年代	員数
第一章 野崎観音信仰の広がり	寄進する多様な人と物	福聚山慈眼禅寺祠堂料帳	慈眼寺	(貞享4年)～宝永6年	1冊
		慈眼禅寺交割牒	慈眼寺	貞享4年(1687)	1冊
		弥陀如来等寄進覚	慈眼寺	正徳4年(1714)7月9日	1点
		灯明料寄附状	慈眼寺	寛政12年(1800)10月	1点
	慈眼寺を支える講	御公儀御地頭江願状之控	慈眼寺	寛延元年(1748)12月	1冊
		詞堂銀貸附仕法帳	慈眼寺	文政11年(1828)12月	1冊
	大和郡山の武士井上宗秀	田地売渡し証文	慈眼寺	貞享4年(1687)6月25日	1点
		井上佐介所持田地寄進証文	慈眼寺	貞享4年(1687)12月10日	1点
		井上宗秀寄進状写	慈眼寺	貞享5年(1688)5月26日	1巻
	平戸の商人紙屋和三郎	紙屋和三郎寄進灯笼(パネル)	慈眼寺	安永6年(1777)2月下旬	2基
大坂の町人山城屋三郎兵衛	軒平瓦	慈眼寺	宝暦10年(1760)3月18日	1点	
第二章 慈眼寺と茨田氏	大塩の乱と茨田郡士	蒔田家由緒書	門真市	慶安3年(1650)1月	1点
		茨田郡士(栄孝)書置	門真市	安永2年(1773)6月	1点
		大塩平八郎像	成正寺	大正5年(1916)以前	1幅
		幕末維新絵物語 巻一	大阪府立中之島図書館	明治3年(1870)以降	1冊
		火乱器之図	大阪府立中之島図書館	天保8年(1837)	1冊
		大塩平八郎檄文(複製)	個人	天保8年(1837)	1点
		大塩平八郎檄文版木(模造)	大塩事件研究会		1組
		文器和尚像	慈眼寺	江戸後期	1幅
		御預り所石代下願書草案	河合家	天保8年(1837)5月7日	1点
	茨田氏一族と慈眼寺	祠堂銀子請取之一札	門真市	明和元年(1764)1月	1点
		日牌月供施入之扣并寄附祠堂共	慈眼寺	天明3年(1783)	1冊
		野崎慈眼寺常灯明献上件	慈眼寺	安永5年(1776)6月14日	1冊
		茨田郡士・山城屋三右衛門寄進灯笼	慈眼寺	天明6年(1786)3月吉日	2基
		茨田家位牌	慈眼寺		3基
	郡士の最期と茨田氏のその後	茨田家略伝	門真市	明治16年(1883)6月	1冊
		茨田群士縁由脇差	門真市		1点
		塩畑題消録	山田家		1冊
		茨田ひろ位牌	慈眼寺	昭和44年(1969)1月5日	1点

大東市立歴史民俗資料館 館報 第9号

令和7年(2025)7月31日 発行

発行 大東市立歴史民俗資料館(指定管理者:株式会社アステム)

〒574-0015 大阪府大東市野崎3-6-1

TEL:072-876-7011 FAX:072-876-7702

編集・デザイン 森井 綾乃(株式会社アステム)